



千葉氏胤を弔い原胤高が開いた寺



『続英雄百人一首』より「千葉新介氏胤」江戸時代に武将の歌を集めて刊行され、氏胤の歌も掲載されましたが、下の句が別の歌と取り違えられています。

国文学研究資料館所蔵

境内の閻魔堂には、明応4年(1495)作の閻魔王坐像が安置されています。本尊の地蔵菩薩が死者を救済する一方、閻魔王は死者の生前の罪を裁くものとして信仰され、当時両者は同体とも考えられていました。背後の亥鼻台地は、中世には墓域であるとともに聖域でもあったと考えられます。この地蔵菩薩坐像と閻魔王坐像は、中世都市千葉における亥鼻台地周辺の位置づけを示す貴重な文化財です。

高德寺は曹洞宗の寺院で、南北朝時代に活躍した千葉氏胤の四男、原胤高が開いたと伝えられています。氏胤は、足利尊氏に従って南朝との戦いで活躍する一方、和歌を得意とし、歴代当主の中で唯一、その歌が勅撰和歌集『新千載和歌集』に掲載されました。貞治4年(1365)に32歳の若さで死去しましたが、高德寺も同じ年に建てられたと伝わります。しかし、胤高は当時まだ幼く、実際には成人後に父の供養のために建てたと考えられます。

原氏は、現在の中央区生実町にあった小弓(生実)城を本拠としました。康正元年(1455)、原胤房(胤高の孫)は千葉一族の長老、馬加康胤とともに千葉家当主、胤直(氏胤のひ孫)を滅ぼします。康胤が千葉家の新たな当主となるのを助けたことから、原氏は重臣筆頭である「家宰」となりました。



本尊 延命地蔵菩薩坐像



閻魔王坐像